



JSQC ニュース

No.336

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 個人情報保護の最新の動向
- 2-私の提言 イブニング・アカデミー、ワークショップを通じて
- 2-ルポルタージュ 第374回中部事業所見学会ルポ
- 3-鈴木和幸氏デミング賞本賞を受賞/デミング賞/6月・7月の入会者紹介
- 4-各賞表彰/行事案内/事務局からのお知らせ

個人情報保護の最新の動向

東京情報大学 畠中 伸敏

個人情報保護に関する法律（個人情報保護法）が2003（平成15）年5月に公布されて10年を超える。この間に、情報通信技術が飛躍的に発展した。携帯電話、スマートホン、GPS、フェイスブック、グーグルなど、多種多様なデータの収集や分析が可能となり、2015（平成27）年1月以降に、個人情報保護法の改正を図ると同時に、関係法案の提出が検討されている。

一方、平成26年3月に、EUの欧州議会本会議で、個人データ保護規則案が可決された。

個人情報保護法では、個人情報は、“個人を特定する情報”として定義されたが、この10年間の情報通信技術の発展に合わない部分が顕著に生じている。欧米のプライバシーデータ概念は、日本語でいう“個人情報”のみでなく、プライバシーに関する情報、データを収集すると個人を特定できる情報（GPSデータ、SUICAの乗降データ等）を含んでいる。ビッグデータの定義はないが、結果として収集された膨大かつ多種多様なデータの集合をビッグデータと称し、このビッグデータの利活用により、新産業や新サービスの創出に結びつくと期待されている。

例えば、携帯電話、スマートホンを例にとると、ビジネスとして、キャリアと呼ばれる通信業者として

のビジネス、スマートホーンにインストールするソフトビジネス、コンテンツビジネスが存在する。個人情報と関わるソフトの利用に伴う課金情報と利用者情報は、国境を越えて展開され市場調査や製品開発に利用されている。その反面、個人情報保護の重要性は、益々、増大している。

米国のグーグル社の利用規約では、“利用者が投稿したデータを同社が定めた様々な用途に利用できる”とあり、収集したデータを独自のビジネスに展開することができる。

個人情報保護法の改正の狙いは、ビックデータ等の利活用により大きなビジネスの起爆剤となり、一方では、“個人の権利利益の侵害を未然に防止する”ことにある。

大きな改正点は、“第三者提供等を本人の同意がなくても行うことを可能とする枠組を導入する”ことで、具体的には、“個人の特定性を低減したデータ”であれば、本人の同意がなくても提供可能となる。

法律家の最初の議論は、匿名性（anonymity：追跡不可能性）が満たされると本人の同意がなくても第三者提供してよいと考えていたが、匿名性は未実現のIT技術といわれ、改正案では非常に緩やかな表現となっている。

もう一つの大きなイベントは、2013（平成25）年5月24日の番号法の成立である。「クロヨン」と呼ばれ、

国税庁の所得把握率が、給与所得者の9割、自営業者の6割、農業従事者の4割にとどまっている。この所得把握率の不均衡をなくすために、支払調書に事業所得者の個人番号を記載し、取りはぐれをなくそうというものである。支払い調書に個人番号を記載する必要から、どこまで取引の相手が協力するかを疑問視する向きがあるが、成功すれば税収入アップとなる。

2015（平成27）年10月から、12桁のマイナンバー制度が施行され、紙の通知番号が郵送で市町村から通知される。11桁は地方自治体で、目に見えない形で振られ、すでに適用されていて、まず、各家庭単位で番号が振られる。各職場に通知され、納税及びその他に利用される。

2016（平成28）年以降からは、住民の申請により、通知カードと引き換えに顔写真付きの個人番号カードの交付が可能である。

いずれにしても、ただでさえ、日本からデータが出ていくが、国外からはデータが来ないなど、不平等な状態下に置かれている。日本政府は、ビックデータ等の利活用により大きなビジネスを日本に呼び込むために、EUに歩調を合わせ、日本に膨大なデータが集まる仕組みを、早急に構築する必要があり、パーソナルデータに関する法改正及び関係法案の提出を急いでいる。

● 私の提言 ●

イブニング・アカデミー、ワークショップを通じて

東京理科大学 安井 清一



今年10月からイブニング・アカデミーが始まった。一方的に知識を教授するのではなく、インタラクティブな形式によって、背景思想までを踏まえた深い理解を目指し、実務で使える応用力を身に付けようとしたものである。私もこれに一口乗った。テーマは実験計画法を用いた問題解決であり、事例を精読して、例えば、なぜこのような因子や水準をとったのか、などについて議論し、包括的な理解を目指したいと考えている。大学人であるので、理論や数理の理解を深める時間は十分にあるが、実践は産の相手があつての

もの、そう簡単ではない。これを通じて、産の方々と議論し、理解を深めたいと思う。また、品質管理に必要な新たなテーマの発見という目論みもある。

私にとってのイブニング・アカデミーは、普段ではできないこと、ひとりでは億劫なことを、サークルをきっかけにしてやってみよう、というものである。専門とのバランスはとったものの、個人的な希望であり、テーマを挙げたときにはそう感じていた。この記事を読んでいる方々にも、普段ではできない、機会がない、ひとりでは億劫なことがあるのではないかなと思う。こんな時はサークルを立ち上げてみてはいかがだろうか。イブニング・アカデミーはサークルではないが、ワークショップはそのような意味

合いも持ち合わせている。

ワークショップは研究会よりは緩やかで、気軽に参加できる問題討論の場である。以前、多品種少量生産に対する工程管理に関するワークショップを立ち上げた。研究というよりは多品種少量生産のような管理の難しい問題を試しに議論するという活動であったが、大変勉強になり、先進的生産方式に対する工程管理研究会や現在の研究活動にもつながっており、大変よい経験であったと思う。

世間では読書会がはやっているらしい。ワークショップは読書会的であってもよいと思う。学会員による読書会なのだから、より深い読書ができるだろう。SQC中級書籍として英文書籍が適していると思う。世界の様々な人々に対応するため、例を多く用いて易しく書かれており、内容は豊富である。進み行くグローバル化に対しても助けとなるだろう。このような交流を通じて、いろいろな意味で豊かさを感じることができればベストだと思う。

第374回中部
事業所見学会
ルポものづくりに貢献できる
人材育成

さる、平成26年7月4日(金)に第374回(中部支部95回)事業所見学会が、(株)豊田自動織機 技術技能ラーニングセンター(愛知県大府市)にて開催され、標記テーマの下、32名の参加者で行われた。

豊田自動織機は1926年(大正15年)に豊田佐吉翁発明の「自動織機」を製造するため、株式会社豊田自動織機製作所(現株式会社豊田自動織機)を設立、現在に至っている。今回の見学先である技術技能ラーニングセンターは、2004年(平成16年)技能専修学園として設立、2007年から技術者教育を立ち上げ、技術・技能教育の融合をはかり、知識と実践力を備えた人材育成を行っている。

最初にラーニングセンターの設立の目的から育成体系、技術指導の内容などをご説明いただいた。また、ラーニングセンターで指導を受けた実習生から、技能

五輪への参加などについてもお話を聞かせていただいた。

見学では、センター内を2班に分かれ教材、実習施設、現場をご説明いただきながら実施された。冒頭、豊田自動織機の原点ともいえる無停止切換式豊田自動織機(G型)のデモ可動を行っていただき、これが教育の基礎になっていることをご説明いただいた。

各フロアには教材で使用される、ねじや歯車が手に取って見るができるほか、これらがどのようにして作られるかを分かりやすく説明するからくり道具も用意されており、本質から学ぶことができる教材が揃えられていた。指導者、教科書などは全て社内準備され、毎年生徒からのアンケートを基に常に改善がなされていることも紹介された。

全体を通して、参加者から積極的に質問がされ、皆さんの人材育成に対する向上意識の高さを感じた。

最後に技術技能ラーニングセンターの皆さまには、業務多忙の中、充実した見学内容の提供と丁寧な説明に、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

森口 優(ブラザー工業(株))

鈴木 和幸・元本学会会長 今年度デミング賞本賞を受賞

電気通信大学教授で、本学会第39、40年度会長の鈴木和幸氏が本



年度のデミング賞本賞を受賞されました。信頼性工学、TQMに関する研究・教育、普及・啓発活動に携わり、とりわけ信頼性工学の分野ではWarranty data 解析の分野を切り拓くなど、世界的レベルで学界をリードされてきました。論文審査委員長も務められました。会長在任時には、信頼性工学及びTQMの理論・方法論の社会での実践適用を目指し、産業界への普及・啓発活動、国の政策やその対象である安全・安心社会構築への貢献、さらには国際貢献に尽力されました。

また、次代を担う人材を育成するため、初等・中等教育での問題

解決のための教育の啓蒙・普及にも重点をおいた活動をされました。後継者育成にも熱心に取り組み、これまでに11名の博士を送り出しています。33組織、延べ80名の研究者による共同研究を推進し、研究の組織化にも貢献しています。同氏が栄えあるデミング賞本賞を受賞されたことは本学会としても光栄なことであります。誠にありがとうございます。



2014年6月の入会者紹介

2014年6月20日の資格審査において、

下記の通り正会員13名、準会員1名の入会が承認されました。

デミング賞委員会(委員長 榑原 定征)において、2014年度のデミング賞大賞、デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月12日経団連会館にて執り行われました。

1. デミング賞本賞
鈴木 和幸 氏 電気通信大学大学院 教授
2. デミング賞普及・推進功労賞(海外)
Mr. Kan Trakulhoon 氏 President & CEO, Siam Cement Group
3. デミング賞
GC America Inc. (アメリカ)
株式会社セキソー (愛知県岡崎市)
Mahindra & Mahindra Limited, Mahindra Powerol Business (インド)
4. 日経品質管理文献賞(文献名五十音順)
 - (1)「JSQC選書23 会社を育て人を育てる品質経営
—先進、信頼、総智・総力—」
深谷 絃一 著
 - (2)「新版 信頼性ハンドブック」
日本信頼性学会編、編集委員長 鈴木 和幸 氏
 - (3)「TQMの考え方とその推進」
光藤 義郎 著
 - (4)「JSQC選書21 低炭素社会構築における産業界・企業の役割」
桜井 正光 著
 - (5)「品質管理特別講義 基礎編」/「品質管理特別講義 運営編」
飯塚 悦功 著

(正会員13名)○竹岡 基(セキスイファミエス近畿)○北端 匡樹(パナソニックデバイスエンジニアリング)○高木 啓太(三菱重工業)○遠藤 聡志(サンスター)○山田 大介(パナソニック)○松田 英男(マツダ)○木戸 彰(セゾン情報システムズ)○石井 照正(アーレスティ)○久保 博稔(ローム)○大野 種子(岐阜赤十字病院)○岡部 知行(ニコン)○森 博(豊田自動織機)○横田 博史(愛知製鋼)

(準会員1名)○井本 和博(東京理科大学)

2014年7月の入会者紹介

2014年7月25日の理事会において、下記の通り正会員19名、公共会員1社1口の入会が承認されました。

(正会員19名)○荒川 雅裕(名古屋工業大学)○野々山 和行(SEIロジネット)○森田 慧(いけうち)○河田 洋之(東芝ライフスタイル)○伊藤 一男(ローム)○橋本 昌俊(東京応化工業)○奥山 一郎(トヨタ車体)○平間 浩則(スタンレー電気)○仲野 彰(仲野改善研究所)○石川 慎一(中外テクノス)

○水上 宗幸 (浜田工業) ○中嶋 浩一 (アイシン精機) ○小川 文子 (ナプテスコ) ○佐々木 眞一 (日本科学技術連盟) ○染谷 健司 (東京フェライト製造) ○片山 翔太 (東京工業大学) ○川添 佑典 (九州電化) ○安永 武史 (日立メディコ) ○小澤 章一 (古河電気工業)

.....
 (公共会員1社1口) ○職業能力開発総合大学校

正 会 員 : 2249名
 準 会 員 : 67名
 職 域 会 員 : 21名
 賛 助 会 員 : 157社206口
 公 共 会 員 : 21口

各賞表彰

第44回通常総会において、第43年度研究奨励賞2件、品質技術賞2件、品質管理推進功労賞4氏、JSQC Activity Acknowledgment賞2氏の授賞および表彰が行われます。

【第43年度研究奨励賞】

『質保証を実現する手術プロセスを構成する標準モジュール導出モデルの構築』

下 野 僚 子 氏 (東京大学)

「品質」44, 2, pp. 72-82 (2014)

『信号因子が複数存在するシステムに対する動特性ロバストパラメータ設計』

佃 康 司 氏 (早稲田大学)

「品質」44, No.2, pp. 83-91 (2014)

【第43年度品質技術賞】

『半導体製造工程におけるT2-Q管理図の実践—変動の大きさの管理から変動パターンの管理へ—』

東 出 政 信 氏 (ルネサスエレクトロニクス(株))

「品質」44, 3, pp. 77-86 (2014)

『製造業におけるデータサイエンスの社内教育』

吉 野 睦 氏 ((株)デンソー)

「品質」44, 3, pp. 22-29 (2014)

【2014年度 品質管理推進功労賞】

荒 井 秀 明 氏 (株)小松製作所

今 里 健一郎 氏 ケイ・イマジン (元 関西電力(株))

岡 田 正 志 氏 トヨタ車体(株)

古 谷 健 夫 氏 トヨタ自動車(株)

【第43年度 JSQC Activity Acknowledgment賞】

石田敬人氏 アイ・アール・ティー(株) 下野僚子氏 東京大学

事務局からのお知らせ

【QMS有効活用及び審査研究部会 WG6 第4期研究報告書】頒布のお知らせ

この度、標記の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

1. 資料代：1冊 (A4判72頁) 会員1,100円 (税込み) 非会員1,600円 (税込み)、QMS部会員は1冊目に限り700円。送料別。
2. 詳細：http://www.jsqc.org/ja/oshirase/jimukyokukara.html#h261003
資料は入金を確認の上、郵送いたします。

資料は入金を確認の上、郵送いたします。

行 事 案 内

●第44回年次大会・東京都市大学 (本部)

日 時：2014年11月28日(金)29日(土)

28日(金)13：30～事業所見学会

日産自動車 追浜工場

29日(土) 9：30～10：50

通常総会／各賞授与式

11：00～11：30 新会長講演

大久保尚武氏 (積水化学工業)

11：30～12：50

昼食休憩・ポスターセッション

12：50～17：55 研究発表会

18：10～20：00 年次大会懇親会

参加費：(当日払いは別金額)

見学会・研究発表会

会 員7,320円 非会員 13,140円

準会員4,160円 一般学生5,740円

研究発表会

会 員4,320円 (締切後4,860円)

非会員8,640円 (締切後9,720円)

準会員2,160円 一般学生3,240円

懇親会

会 員・非会員 4,500円

準会員・一般学生2,500円

申込締切：2014年11月19日(水)

申込方法：

ホームページからお申し込みできます。

http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html

●第15回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ

日 時：2014年12月23日(火)10：00～17：30

会 場：筑波大学東京キャンパス文京校舎
134講義室

定 員：200名

参加費：2,000円 ※当日払い

申込締切：12月15日(月)

プログラム：

「原子力発電所の安全確保における品質保証の役割」

宮越直樹氏 (三菱重工業)

「運輸安全マネジメント制度と事業者による安全管理」

岡本満喜子氏 (長岡技術科学大学)

「医療分野における規制・第三者評価とプロセス改善活動」

永井庸次氏 (ひたちなか総合病院)

「製品事故に対する行政の対応と事業者によるリコール」

鈴木和幸氏 (電気通信大学)

「ルール不遵守に起因する事故を防ぐ上での行政による規制と事業者による自律的マネジメントのあり方」

首藤由紀氏 (社会安全研究所)

「安全・安心な社会の確立に向けた行政、事業者、社会の役割」

木村 浩氏 (パブリック・アウトリーチ)

パネルディスカッション

コーディネータ：

伊藤 誠氏 (筑波大学)

申込方法：

ホームページからお申し込みできます。

http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html

詳細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h261223

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org